

研 究 分 野	増養殖技術	部名	磯根資源部
研 究 課 題 名	モズクを育む清らかな里海づくり事業		
予 算 区 分	増養殖研究所費		
試験研究実施年度・研究期間	H20～H21		
担 当	山田 嘉暢		
協 力 ・ 分 担 関 係	新深浦町漁協、竜飛今別漁協、佐井村漁協、深浦町役場、鱈ヶ沢水産事務所、青森地方水産業改良普及所、むつ水産事務所		
<p>〈目的〉</p> <p>イシモズクは、本県の日本海から津軽海峡に至る沿岸で、毎年100～200トン（約1億円）前後が漁獲され、海水中のリンや窒素を除去する浄化機能を有している。近年、機能成分が明らかになるとともに健康食品として注目され、主産地では観光・流通産業と連携した特産品づくりも進められている。しかし、漁獲量の年変動が大きく、豊漁年には価格が暴落し、漁獲が自粛される。</p> <p>そこで、各海域のイシモズク生産の中核地域で、流通実態の把握、養殖生産技術の開発、養殖・流通に関する学習会を行うことで、モズクの漁獲の安定・増大を図り、海域の浄化機能を十分に発揮できるようにするため、必要な調査を実施するものである。</p> <p>〈試験研究方法〉</p> <p>1 流通実態の把握（H20）</p> <p>イシモズクの地域銘柄を入手し、形態の違いについて調査するとともに、流通経路、消費地や用途を把握する。</p> <p>2 養殖生産技術の検討（H20～21）</p> <p>イシモズクの豊凶予測手法と天然採苗試験による養殖技術の検討を行う。</p> <p>3 養殖、流通に関する研修会（H21）</p> <p>モズクを漁獲している市町村、漁業関係者等を対象に養殖、流通に関する研修会を開催する。</p> <p>〈結果の概要・要約〉</p> <p>1 流通実態の把握</p> <p>新深浦町漁協、竜飛今別漁協、佐井村漁協におけるモズクの流通状況等について聞き取り調査を行った。</p> <p>新深浦漁協では、漁業者が漁期前にモズクの繁茂状況を観察して、漁獲量と単価を決めている。漁獲物は全量、組合で買い取りする。平成19年は20トンを漁獲したが、10トンを組合で買い取りし、加工用に用いた。残りの10トンは生で本県西海岸の業者に出荷した。モズクは例年7月20日以降に漁獲すると、色が黒くて、茎も太くなるので良いと考えている。当地区では、「草モズク（深浦では花モズクとも呼ぶ）」、「岩モズク」、「ソウメンモズク」、「マッカモズク」の4銘柄。草モズク（花モズク）は例年5月に漁獲されてすぐに終漁し、岩モズク、ソウメンモズク、マッカモズクは例年7～8月に漁獲される。草モズク、岩モズク、ソウメンモズク、マッカモズクの順で太い。モズクは漁業者が水深8～10mを潜水して漁獲する。深い所のモズクは色が黒くて、茎が太い。</p>			

ズクは漁業者が水深8～10mを潜水して漁獲する。深い所のモズクは色が黒くて、茎が太い。

竜飛今別漁協では、漁期の3日前にモズクの繁茂状況を観察して漁獲量を決めている。その全量を、本県西海岸の業者と随意契約する。例として10 t～20 t程度。色や太さなど業者の要望にそったモズクを漁獲している。銘柄は「草モズク」、「石モズク」、「笹モズク」の3銘柄。「笹モズク」より「草モズク」が業者の評価が高い。

佐井村漁協のモズク取り引きは本県西海岸の業者のみ。業者には10kg籠に入れて生で出荷する。

牛滝地区のモズクは岩モズクと笹モズクのみ。一般に良質なモズクとは黒っぽくて、茎が太く（ソウメンモズクよりは茎が細い）、ヌメリが強いものが良いとされている。長後地区の長浜で漁獲されるモズクは、本県でも最も良質で、豊漁年では60トンは漁獲できる。牛滝地区のにごり間のモズクは、湾がいつも濁っていて、モズクに泥や付着物がつき評価が悪いため、通常は禁漁にしている。

しかし今年是不漁年だったため、にごり間のモズクも漁獲した。今年は昨年よりモズクの値段が良い。毎年50～60トンは漁獲していたが、今年4～5トン程度の漁獲であった。

2 養殖生産技術の検討

モズクの豊凶予測手法を検討するため、平成20年4月から6月にかけて、毎月1回、深浦町大戸瀬、今別町浜名、佐井村長後の各地先に縦縄式のロープにトリカルネットをモズクのコレクターとして設置し、7月の漁期前に水深ごとの付着状況を観察した結果、深浦町大戸瀬及び佐井村長後地先では、時化等のため、コレクターが所在不明または回収不能になり、今別町浜名ではモズクの着生は認められなかった。

また天然採苗を検討するため、平成20年4月から6月にかけて、毎月1回、深浦町大戸瀬、今別町浜名、佐井村長後の各地先にモズク試験礁を設置し、7月の漁期前に取り揚げした結果、4月に今別町浜名地先に設置したモズク試験礁のみに、モズクの着生が認められた。

〈今後の問題点〉

一部海域におけるモズクの付着終期は把握できたが、始期は不明である。

〈次年度の具体的計画〉

モズク試験礁の設置：平成21年1月～5月

モズクの養殖、流通に関する研修会の開催。

〈結果の発表・活用状況等〉

深浦町海洋牧場管理運営協議会で発表。